

## 大牟田市総合計画審議会(第6回：第1部会)会議摘録

- ◆ 日 時 令和元年5月31日(金) 18:00～20:15
- ◆ 場 所 大牟田市役所北別館4階第1会議室
- ◆ 委員出席状況 出席 7人、欠席 3人

## 1. 議事

第6次総合計画 まちづくり総合プラン

※各章ごとに質疑応答。

### 1編 未来を拓く人がはぐくまれています

#### ①5章 スポーツを通して生きがいに満ち、活気にあふれるまち

委員：健康づくり市民大会やチャレンジデーなど、様々な取組みを行っているかと思う。具体的なイベントを書き込んだほうが、市民にも分かりやすいのではないか。

所管課：非常に数多くのイベントを行っているため、具体例が多く、どの部分で表現するか検討したい。また、視点1～3の内容は、H23に策定したスポーツ振興計画の施策内容に合わせて記載をしているため、実は第5次計画から文章表現としては、あまり変わっていないので、そうしたことも含めて検討したいと思う。

委員：本章は、市民が健康に過ごして明るく、ということが趣旨かと思うが、スポーツを通してどのようなまちづくりをしたいかという未来像まで記載したほうがいいのではないか。確かに健康維持に運動は欠かせず、大事な要素については記載のとおり。しかしスポーツというものの捉え方は大きく変わっている。体育館など施設が老朽化する中、スポーツツーリズムやスポーツ大会誘致など、遠方から人を呼び込み、外貨を稼いで、交流人口も増やしていくといった、スポーツでまちづくりを行っていく視点も重要。また、間近でプロスポーツを見ることで子どもは憧れを抱き、そして目標とするなど、スポーツは青少年の健全育成にも寄与する。スポーツツーリズムについて市の考え方はどうか。

所管課：スポーツ振興計画の期間が10年間であるため、この4年間はこの内容で進めていきたい。スポーツツーリズムは国でも推進されている施策であり、スポーツ担当だけではなく、庁内の関係部局、民間事業者とも協働して進めていくべきと思っている。本章に言葉は出てこないが、今後4年間の中でも取り組んでいきたい。

委員：他部局との連携まで踏み込んだ回答だが、いろいろな制約があるのだろうが、そこをお願いしたい。スポーツツーリズムに限らず、スポーツを推進することで大牟田の成長に繋がると信じている。幼い子どもから高齢者まで含めて元気で活気のあるまちになるよう、ここに記載していること以外のことにも取り組んでいただきたい。

委員：チャレンジデーは無事勝利となり、とても嬉しく思う。大きな目標として、将来大牟田からオリンピック選手となるような青少年が出てくれたらと思う。みなと

校区では通学合宿を行っているが、その中で普段やらないことをやらせてもらおうと子どもたちと卓球をしており大変好評である。やはり小さい頃から色々やらせているということも大事だと思うが、市としていかがか。

所 管 課：いま市内の高校生が頑張ってくれていて、個人で全国大会で優勝する子もいる。将来的にオリンピック選手も出るのではと期待しているところ。ご紹介のあった卓球については、市民体育館でも最も人気の種目であり、多くの人が利用している。子どもから高齢者まで楽しみながら取り組めること、そしてそこから選手が生まれていくことが良い環境であると考えます。子どもが少なくなってくる中でどう対応していくというのはあるが、オリンピックを契機として良い環境をつくれるよう頑張りたい。

委 員：健康維持も大事だが、10年後20年後を見据えたワクワク感を市民が感じられるようにしていただきたい。スポーツを通じて子どもたちがワクワク感を持つことで、未来が明るく見えるようになるだろうと思う。そのような中、公立高校は生徒数の減により、部活動運営も厳しくなっている現状である。子どもたちがやりたい部活動がなければ、市外に出てしまうのではないだろうか。先ほどもご指摘があったような外貨を稼ぐという考え方もある。子どもたちの未来に向けて皆がワクワクするような事業を考えてほしい。

委 員：公立高校は市の管轄じゃないので回答難しい部分もあるかと思うが、どうか。

所 管 課：確かにご指摘のとおり、学校体育というよりも社会体育として対応すべき課題かと認識しているが、市として具体的な対応策をお答えすることが難しい。ワクワクという観点では、市にはワクワクシティ基金というものがあり、H31から青少年のスポーツ・文化に関する事業助成のため500万程度の予算を計上し、募集をこれからかけていく。皆様からも募集に関するご意見やご要望をいただければ大変ありがたい。

委 員：以前は、オリンピック出場前の子どもが参加する県の事業があったが、今もやっているのか。

所 管 課：タレント発掘事業というが、今も県で行われており大牟田の子どもが参加したこともあった。子ども時代から良い選手をのばそうといった取組みは県でも行われている。

委 員：スポーツを行うにしても体育館など施設老朽化の問題がある。学校開放などを利用する人も多いが、学校も予算が限られているため古い設備のところもある。予

算などの割振りはどうなっているか。

所 管 課：近年では陸上競技場のトラック（全天候型）の張り替え、延命球場のスコアボードの修繕を行った。市の単独予算では対応が難しいため助成金などを活用している。今後もそのような助成金を活用しつつ、予算の割振りを行いたいと考えている。また、学校開放施設については、教育委員会の予算の範囲内で修繕を行っている。

委 員：体育館は、防災害時の拠点にもなる場所であるが、建替えの検討状況について聞きたい。

所 管 課：現体育館の横の敷地に建替え予定。H31に整備のための基本計画を策定する。

委 員：今年度はラグビーワールドカップがあり、キャンプ地の要請が各所に行われたと聞いている。大牟田が受け入れられなかった理由は。

所 管 課：オリンピックのキャンプ地誘致については、まだ諦めずに交渉をつづけているところである。

委 員：世界レベルの競技を近くで見るチャンスである。期待したい。

## ②1章 安心して子どもを産み、育てることのできるまち

委 員：はぐはぐ OOMUTA は市内に何箇所あるのか。また、どんな専門職がいるのか。

所 管 課：市内に1箇所。市役所内の子ども未来室内に設置している。専門職として、助産師・保健師・看護師・歯科衛生士・管理栄養士を配置している。

委 員：とても良い制度。地域包括支援センターのように、各地区公民館にあればと思う。市外から移り住んで妊娠した人などは、友人や親族が近くにおらずに不安と思うし、わざわざ行くのは大変と思う。

所 管 課：今は1箇所だが、地域包括支援センターとも連携し、情報把握に努め、支援を行っている。市外から移り住んだ方等には、市民課から子ども家庭課につないでもらい、制度の紹介をするなど、困ったときには支援があることを周知し、対応を図っている。

委 員：ぜひ各地区公民館にも設置されることを期待する。

委員：自分も大牟田とゆかりないところから移り住んだ一人。市はもっと若い人に住んでもらいたいと考えていると思う。大牟田市は市外から見たら、まだまだ暴力団のイメージが強い。「安心して子どもを産み育てられるまち」となるには、もっと対応して、それを発信することが必要と考える。

出会いの機会とあるが、昔は民間の寮などで出会いの場があったという話を聞いたことがある。現状はわからないが、市は民間等で行われている出会いの場などにどう絡んでいるのか。

また、最近自分の周りには、若い方が都会から U ターンで大牟田に移り住んだり、帰ってきたりしているし、こちらで結婚している人もいる。こういう人に大牟田を選んだ理由をインタビューしてみるのが良いのではないかな。

子育てを学ぶ機会の充実とあるが、大牟田には動物の命を大切にしている動物園があるので、動物園を使った学習を考えてはどうか。

所管課：出会いの場については、市では結婚サポートとして、婚活イベントやセミナーを開催している。委員ご意見のとおり、大牟田の良さをよりアピールしながら進めていきたい。帰ってきた人等の情報は現状あまり収集できていないので、よりキャッチできるように進めたいと思う。動物園での学習については、生涯学習課とも連携して検討したい。

委員：公民館に子ども会があるが、公民館加入率も下がってきているし、何かイベントをしても子どもの参加があまりない。参加の後押し等を行政で何か出来ないだろうか。

所管課：社会教育・生涯学習の観点になるので、詳しくは他の章になると思うが、子どもが参加するとその親や祖父母も参加されるなど、地域の活性化にも繋がる。子ども会がなくなってきている現状もあるので、学校・地域・家庭で一体的に取り組むよう、関連部署と連携していきたいと考える。

委員：保育所の充足状況はどうか。また、虐待対策が最近取り沙汰されているが、虐待防止に係る関係機関との連携はいかがか。

所管課：保育所・認定子ども園の充足状況としては、待機児童はゼロ。虐待防止の取組みについては、地域全体での見守りによる早期発見・早期対応・予防が大切と考えている。地域では児童委員が家庭訪問などで関わってもらっており、医療機関では健診などで関わってもらっている。それらを通じた情報などを共有し、相談対応するなどの連携をしている。

所管課：保育所の充足について補足。ある特定の保育所を希望されて、他の保育所には入

らずに、そこが空くまで待っている人はいる。このような人は待機児童には含まれていない。県下では待機児童が増えており、幼児教育無償化の影響により、今後預ける人の増加が想定されるので、注視していく。

委員：待機児童ゼロであっても、保育の質が低下してはいけない。特に学童の支援員は常に人手不足。市としても支援などの対応をしてほしい。

所管課：検討し、できることから対応したい。

委員：夜間小児救急外来が大変不足しており、外の大学等から来てもらっている現状があるが、市民はあまり知らないのではないかと危惧している。医師会としても議論を重ねているが、中々厳しい状況にある。市としても、医療の所管課のみでなく、子育て等である今回の所管課など、危機意識をどこまで共有しているのか。また、子ども会ももっと入るようアピールが必要ではないか。なぜ入らないのかの問題整理も必要と考える。

所管課：夜間小児救急外来については、次回の第3編2章で議論していただくように予定している。

委員：保護者同士のつながりとあるが、どのように支援しているのか。また、子育てと仕事の両立には病後児保育が不可欠と考えるが、対応していた病院が対応をやめてしまったと新聞で見た。現状はいかがか。

所管課：保護者同士のつながりの支援としては、えるるで「つどいの広場」を実施することで保護者同士の情報共有の場を提供している。まだまだ充分ではないと思うので、他にも支援できないか検討すること大事と考える。

所管課：病後児保育については、委員ご案内のとおり対応していた病院がやめられたため、事業を休止している。大変重要な事業と認識しており、早期に再開できるよう医療機関に相談するなど、対応を模索している。

委員：外国人労働者の受入れを政府が進めているが、外国人が実際来られた際の支援はどうするのか。

委員：小学校では日本語教育があるが、もっと小さい子などに対して、対応した経験などはあるか。

所管課：庁内で言語対応できる職員を探し、どうにか対応している。日本語が理解できな

い人の対応には、どうしても時間がかかってしまう。今後は委員ご案内のとおり増えることが想定されるので、関係部署と連携して検討していきたい。

事務局：命を学ぶ場として動物園を利用した学習ということでは、昨年10月に大牟田大使の道山氏（自らもポエマー）が、世界的に有名なポエマーを2人連れてこられ、市内の小中学生たちを公募し、詩を朗読するようなイベントを行った経過がある。また、市が主催する婚活イベントにおいても、動物園において男女がDIYを実際に行うようなイベントを開催したことがある。また、シティプロモーションとして来られた方へのインタビューをしてみてもどうかと意見があったが、現在広報課でも積極的に行っているところ。ホームページで記事を掲載中であるため、ご確認頂きたい。

### ③2章 持続可能な社会の創り手を育成する学校教育が充実しているまち

委員：基本方針のESDについて、大牟田市のいろんな広報等で確認できるが、ESDの取組みを学校で取り入れてから何年か経っており、子供たちが様々な経験をする中、これまでの取組みにおいて生徒たちがどのように変わってきたか。

所管課：H24年度からESDを取り入れ取り組んできたところ。各学校では地域の実態に応じ展開しているが、まちづくりにおいて、自分たちの課題を解決するために友達や地域の方と協力をして、解決策を考え行動を起こすことがESDの狙いである。子どもたちの行動を見ていると、まちづくりを地域の方と一緒に取り組み、中友校区では民生委員活動などを通じ地域の方と一緒に子どもからお年寄りまで幸せに暮らせるまちづくりに参画するといった、行動力が身につき、高まってきたことが成果としてあげられる。

委員：みなと小学校は海洋教育などに取り組んでいるが、そのほか具体的な取組みを教えてください。

所管課：吉野小学校の桜をまちづくりの中心とする桜プロジェクト、みなと、天領、天の原小学校では海洋教育のモデル校として有明海や川の環境保全を通じた海洋教育、駛馬小学校、宮原中学校においては宮原坑・世界遺産の価値を学び、子どもボランティアガイドなどによって発信し、後世に残す取り組みを行っている。

委員：今後はどのように展開していくのか。

所管課：大牟田市の取組みは、九州のみならず日本全国に発信している。各地から視察などは多くあっており、より一層の大牟田のPRのため、子供たちの発表会など

を通じ自分たちの郷土に誇りを持ち、愛着をもつ子どもを育てるため日本全国に発信していく。今後もグローバル人材の育成など世界に羽ばたけるような子どもたちの育成のため、活動の範囲を広げていきたい。

委員：ESD の賞を取られる話を聞くが。

所管課：大牟田市の取り組みを「ユネスコ／日本 ESD 賞」に応募し、日本から国連（ユネスコ）へ推薦される 3 件の中に選考された。今後国連において世界中の応募から賞を選考されることになっている。

委員：期待しています。

委員：小学校で英語教育を始めて 3～4 年が経過していると思う。小学校 5 年生から英検に合格していると聞いている。中学校に入ってから学力は以前と比べ上がっているのか。

所管課：正確な把握はできていないが、小学校のころから英語に親しみ、子どもたち同士のコミュニケーションのツールとして使うことができていると感じる。英語が苦手であった子どもも、積極的に自分の気持ちを伝える気持ちにはぐくまれている。その経験を通じ中学校へ進学するので、英語嫌いは少なくなっていると感じる。友達同士のコミュニケーションが上手な生徒が増えていると、報告を受けている。

委員：小学校から英語教育を行うことで、発音や学習の呑み込みも早いのではないかと感じる。中学校になって発言することが持続できているか。

所管課：宮原中学校では、英語を使ったボランティアガイドを行っている。京都へ修学旅行に行った際には、多くの外国人観光客に大牟田の世界遺産を紹介していたが、日本語では伝わらない現状をとらえ、子どもたち自ら英語でパンフレットを作成することを提案し、積極的に大牟田の良さを英語で発信するようなことを行っている。このまま充実発展させていきたいと考えている。

委員：大学を出て社会に出ている若者の課題として、奨学金を返済する必要がある。紐解くと、大学を選ぶ際に学費の面で進路変更する実態もある。中学校において高校を選ぶ際など、キャリア教育として様々な職業に就いた大人と対話できる時間がもっとあればと感じている。インターン、職場体験もあるが、もっと日頃からマッチングを行えるよう、行政と商工会議所などで取り組みを強化してほしい。子どもの数が減少する中、宅峰中の学校再編時に不安があり、私立中学に進学する家庭もあった。その不安を取り除くことも課題と考える。大牟田の私立中学校

にとどまってもらえればよいが、中学校から市外に出たり、高校で市外に出て大牟田を離れている現状がある。できるだけ、高校までは大牟田で教育を受けて欲しいし、魅力ある学校教育として充実させてほしい。小中学校の連携にとどまらず、難しいかもしれないが、PTAなどを巻き込み一歩進んで中高連携にチャレンジしてもらいたい。

所 管 課：キャリア教育について、各中学校においては、保育体験や一般企業への職場体験学習を行っている。機会を多く設けるために、事業所をお願いをしているところ。また、本年度は大牟田経済倶楽部の70周年記念事業として、ご支援でJICAから講師を派遣していただき、キャリア教育の一環として講演会などを全中学校で行っている。今後も多くの生徒に経験と職業に触れる機会を充実させていく。

所 管 課：学校再編については再編協議会を立ち上げ、各学校のPTAや地域の役員と交流を密に行い、子どもたちの安全面などに配慮を行うと同時に、授業内容や行事で学校同士で交流を行っている。新校開校予定の2年前から様々な取り組みを行うことによって、少しでもハードルを下げた状態で開校の日を迎えるように取り組んでいる。宅峰中が中学校の再編として初であったが、課題を検証・改善し、これまでの取り組みを活かしながら、次期再編においても取り組んでいく。

委 員：ESDがまちづくりにリンクしていることがよくわかった。また、キャリア教育など自己のスキルアップにも必要であることが認識できた。大牟田から医療、看護、介護人材をと考えたところ、看護学校はあるが、医者になる人材においてはかなり少ない印象であり、医者がいなくなればまちの医療が衰退すると考える。大牟田地域健康推進協議会が主催する毎年9月上旬の「みんなの健康展」も空きブースが増えているが、最近小さな子供たちを見かける。環境やツールはそろった市であると思うので、上手な活用をお願いしたい。

委 員：少子化の中において、この施策は大変重要であり、市の予算も重点的に配分する必要があると考える。他都市とは単純な比較は難しいと思うが、教育全般の予算についての位置付けはいかがか。また、視点1においてICTの活用を掲げているが現状と今後の方向性については。

所 管 課：詳細な金額は持ち合わせていないが、市の予算500億円強の5.6%程度である。建物の耐震化や再編などあると金額は大きくなる。全国比較は行っていないが、一定必要な予算については確保していると認識している。

委 員：人口規模が近い飯塚市においては、H29決算ベースで普通建設事業を除き10億円程度を下回る状況。以前から大牟田市においても予算ベースで教育費は10%を

目指していたと思うが、だんだん減っている印象である。

所 管 課：ICTについては、H29年度に全校電子黒板を導入し、H30年度には全小学校のパソコン教室のPCを入れ替え、画面分離型のPCを導入したところ。また、全中学校においてもパソコン教室のデスクトップパソコンを更新するなど、機器の環境整備は進んでいる。今後もICTの活用を充実させるため、小学校1校をICT研究指定校として位置づけし研究を始めたため、その取り組みを全校に広げていく。

委 員：川崎市で起きた事件以降、引きこもりがクローズアップされている。中高年の方の引きこもり就労支援は大きな問題とされている。引きこもりの原因は、子供のころからの教育の大切さが関係していると感じる。いじめ・不登校に関する具体的な対応や今後の見通しを。

所 管 課：各学校においては、いじめ・不登校の対策として未然に防ぐための防止策を行っており、心の教育、友達同士コミュニケーションをとりながら楽しい学校づくりをしていく活動を行っている。もしそのような傾向があった場合は、一つ一つの事案に対し、組織として取り組み丁寧な対応に努めている。不登校についても市教育相談室に相談員2名、SSW（スクールソーシャルワーカー）を大牟田市で3名の配置、県から1名派遣いただいている。また、適応指導教室等の関係機関とも連絡し、安心して楽しく学校に来ることができる環境づくりと教育相談等を行っている。

委 員：視点4にあるように安心して学べ、地域とともにある学校づくりについて、現在学校からの依頼案内は、少ないと感じる。また保護者の悩みは大きいと考える。ヨーロッパの小学校では日本よりも地域との連携は進んでいる。地域人材を活用して保護者の気持ち（負担）を軽減していくことが必要。地域にお住まいの方々は様々な人生経験者であり、もう少し地域に委ねてはいかがか。

所 管 課：新学習指導要領において、「社会に開かれた教育課程」が示された。学校だけで子どもを教育するには限界があり、保護者や地域と一緒にやっていくことが必要である。ESDの理念にもあるが、地域の方と学校、保護者とも目標を一つにし、学校の教育目標を共有し、学校の中に入ってきていただき、力添えをお願いしたい。学校保護者地域が一体となることで教育が成り立つことから、学校も適宜協力を求めていきたい。

事 務 局：キャリア教育については、市民協働部においても、子ども未来デッサン事業を行っている。評価検証シートにH29年度の実績として掲載をしているので確認いただければ。また、引きこもりについては、次回1編4章の青少年や社会教育にも

関係してくるところであるので、議論いただければと考えている。

#### ④7章 一人ひとりの人権が尊重され、男女が生き生きと暮らすまち

委員：基本方針に「市民一人ひとりの人権が尊重され」と記載されている。

約10年前の大牟田市の女性の参画率は大変低く、福岡県内でもワーストに入るほどだった。しかし、古賀市長の時代から、女性参画の低さに対する危機感や課題意識を持たれたことで、女性参画の推進に向けた取り組みがなされてきた。そして今では、県内でもトップ10に入るほどの女性登用率となっている。そこで、今後より女性参画を推進するための事業展開はどのようにお考えか。

所管課：委員の言われるとおり、10年前に比べると登用率は良くなった。しかし、国が目指す登用率40～60%までには至っていない。現在30%後半台でとどまってしまうている。しかし、年々微増してきているため、引き続き40%以上になるように女性人材リストの活用をはじめ、地域や団体への働きかけを行なっていきたい。また、女性参画をリードしていくためには、ワークライフバランス・家庭との調和が大事である。平成30年3月に策定した男女共同参画プランに合わせて、事業を展開していきたい。

委員：男女共同参画の所管課の方から、まちづくり協議会で女性の参画を促す発言があった。その心意気が良かったので、今後も引き続き頑張っていたきたい。

委員：2016～2017に県の男女参画についての審議会委員を務めていた。様々なところへ参加してきたが、残念に思ったことがある。1泊2日の研修の際、他市の担当者がオブザーバーとして参加していたのを見て、大牟田市はなぜ市民と同じ立場で参加しないのだろうか、と思ったことがある。是非、市役所職員の人々にも参加いただきレベルアップしていただきたい。県の事業等にも率先して参加していただきたい。

所管課：通常業務の都合で参加できないこともあるが、職員レベルアップのために参加していきたい。

委員：インターネットにおけるデジタルタトゥーなどが注目されているが、本市でもそういうことは起きているのか。

所管課：人権問題に対する規制が少ないインターネットは、匿名性をたてに野放しになっている。他自治体では、週1、月1などで、モニタリングをしているところもある。しかし、全てのインターネットを確認できている訳ではない。本市の場合は、モニタリングできていない状況である。そこへの対処も検討しながら、インター

ネットによる中傷がなされないよう、防止に向けた啓発活動等を行なっていききたい。

委員：視点4「男女がともに参画する機会の確保」とされているが、現在でも女性に対する古い考えを持つ人が多いと思う。例えば、組長になった女性は男性の3倍は苦勞している。まだまだ女性の参画する機会が確保はできていないと思う。女性に対する考え方が変わるように、地域等への意識啓発を行なっていただきたい。

所管課：女性の地位向上がテーマになっている男女共同参画プランに沿って周知活動を行なっていききたいと思う。地域における女性の参画状況が、平成29年度33%位で微増してきている状況である。今後は大きく右肩あがりになるようにしていきたい。

委員：ワークライフバランスが取れていないことが原因だと考える。

委員：今でも男性に比べると女性の収入は少なく、DV被害も多い。表に出て行く人への支援はもちろんだが、そういう人への支援を今後もお願いしたい。

#### ⑤6章 文化芸術に親しみ、心豊かに生活できるまち

委員：市内に様々な神社仏閣がある。実家が神社で、最近御朱印を求めて来る人が増えた。神社に来たきっかけを聞くと、観光協会のパンフレットで神社が紹介されていること分かった。文化財に指定されていない神社仏閣などについて、市としての活用についてはどうお考えか。

所管課：観光協会が発行しているパンフレットに、御朱印ができる神社仏閣が紹介されているのだと思う。そこについては、観光おもてなし課が所管になるので、詳しい内容はそちらにお尋ねいただきたい。世界遺産文化財室では、国県市で指定されている文化財についての保存、遺産に対する意識啓発等の事業を行なっている。文化財と文化財でないものを同一にPRすることは難しい。文化財ではないものに対しては、文化財としての申請・申出があれば審査等での対応をしていきたいと思う。

委員：文化財に登録されていない所や神職がいないところでも、特徴のある神社仏閣が本市にはたくさんあるので、注目していただければと思う。

委員：紹介になるが、観光ボランティアガイドの研修に参加した際に、ローカルな神社仏閣をまわるコースがあった。

委員：「(視点1) まちの歴史や文化を知る・学ぶ」について、市役所では様々なことに取り組まれていて頑張っていると感じるが、世界遺産が登録されてから3年目を過ぎ、世界遺産の活用等、今後の展開についてはどのようにお考えが。

所管課：世界遺産に登録されてから今年で4年目を迎える。今年のゴールデンウィークには、4/29と4/30に宮原坑で「平成祭」というイベントを行い、初日は300人を越えた。まだまだ、情報発信が足りないと思うので、観光おもてなし課と連携して取り組みたいと考えている。

また、本市の世界遺産と一緒に登録された8県11市で構成された協議会で、登録5周年に向けた企画を検討している段階である。

委員：日本全国各地で世界遺産登録となった場所が増えてきている。そのため、大牟田市の風土を活かしたイベントなど、地域と一緒に頑張っていただきたい。

委員：文化連合会の会員の高齢化と会員数の減少が進んでいる。まちづくり市民アンケートの結果で、文化芸術が大事だと思う人の割合が少ない。その意識をどのように変えるかが課題だと思う。文化振興財団があると思うが、今後、ハード面とソフト面でどのように展開されていくのか。

所管課：ソフト面としては、高齢化や後継者不足を解決するために、若者の関心にあわせるような形で芸術に触れる機会づくりを念頭に、近年様々な取り組みをしている。昨年度は、ダンスチャレンジおおむたを行なった。高校生が小学生にダンスを教えて、同じステージに立つという取り組みの他、ダンスコンテストや4つの高校に協力してもらってのダンスステージを開催した。イベントを通して、達成感や大牟田の魅力を発信したいという意識が醸成され、小学生達にとっても将来を考えるきっかけとなった。お客さんとしてではなく、参加して考え行動してもらい取り組みを、今後も行なっていきたいと考えている。

また、文化連合会等、会員の高齢化や後継者不足を課題とする団体自身も、小中学生や高校生、もしくは他の団体と同じステージにたっって一緒に取り組むなど活性化を図っているので、相談に応じながら必要な支援を行いたいと考える。

ハード面としては、大牟田文化会館が築30年以上になる。近隣自治体の中でも、大きな会館になるので、今後もこのまま保っていきたいと思う。

委員：わくわくシティ基金を活用した事業が創設されたと聞いているので、特に若い人を育成する部分に明かりがあたるようにしていただきたい。

委員：文化財を通じた外貨の獲得状況を教えていただきたい。また、2点目は要望だが、大牟田では日本フィルの演奏会等があり、音楽が盛んな印象。一方で、若者が音

楽を演奏できる場が減ってきたという声も聞かれる。文化会館の旧レストランだった場所で若者が安価に演奏できるようにしていただきたい。

所 管 課：世界遺産による経済効果については、産業経済部の所管のため当課では把握していないが、本市のインバウンドの対応は遅れていると感じている。外国語ができるガイドもない。しかしながら、中国・台湾・香港・韓国からの来場者もあり、その際は県が作成している外国語パンフレットを用いて対応している。また、観光おもてなし課の所管になるが、佐賀空港にタイガーエアが就航した際は台湾のプレスツアーを大牟田・柳川で行い、世界遺産の PR を行った。

委 員：参考までにお伝えすると、私が勤務する鉄道会社では、世界遺産の企画切符を販売している。企画切符は一自治体にひとつが基本だが、近年のニーズは大牟田市動物園に移っている。

### 3 その他

○次回の開催について事務局より案内。

以上（20：15）終了